

スマート農業 インフォメーション

6
2025

第8号

スマート農業のトピックを配信！

生産方式革新実施計画・開発供給実施計画が認定されました

スマート農業インフォメーション第8号では、前号に引き続き、認定を受けた取り組みを紹介します。これまでの累計で、**生産方式革新実施計画42件、開発供給実施計画39件**が認定されました。

計画の申請は、随時受け付けています。申請・相談先など、ホームページも御覧ください。



**スマート農業技術活用促進法
ホームページはこちら**

生産方式革新実施計画の認定状況

● 穴戸真ほか（北海道士別市）、（株）3Magic 6月16日認定

小麦・大豆

収穫作業を請け負うサービス事業者から得られた収量データを複数の生産者と共有、ほ場ごとの適正施肥を実施

● 干場法美ほか（北海道岩見沢市）、（有）岐阜コントラクター 6月26日認定

小麦・大豆・なたね
・子実用とうもろこし

サービス事業者が栽培管理システムのデータを他の生産者と共有。分析データを基にほ場ごとの適正施肥等を実施

● 山竹猪農業（株）（青森県青森市）、（株）日本農業 6月26日認定

りんご

スマート選果システムによって得られたデータを生産者と共有。分析データに基づき適正な栽培管理を実施

● 3daysグループ（株）（青森県青森市）、（株）日本農業 6月26日認定

りんご

スマート選果システムによって得られたデータを生産者と共有。分析データに基づき適正な栽培管理を実施

● ベルファーム（株）（青森県青森市）、（株）日本農業 6月26日認定

りんご

スマート選果システムによって得られたデータを生産者と共有。分析データに基づき適正な栽培管理を実施

● （株）西部開発農産（岩手県北上市） 6月26日認定

水稻

新品種の導入、直播面積の拡大による作期分散を通してスマート農業機械の稼働面積を拡大

● （株）相川ファーム（秋田県湯沢市） 6月26日認定

水稻

スマート農業技術によって得られたデータを共有。分析データを基に適正施肥を実施

● （農）魁（山形県尾花沢市） 6月26日認定

そば

収量コンバインによって得られた収量データを産地で共有。分析データに基づきほ場ごとの適正施肥を実施

● （株）アグリッド（三重県いなべ市） 6月26日認定

トマト

環境モニタリングシステムで得られたデータを他の生産者と共有。分析データを基にほ場ごとの栽培管理を実施

● 中野雄一郎（徳島県徳島市） 6月26日認定

プロコリー類、レタス類、
オクラ、キャベツ

作業を効率的に実施する自動アシスト(トラクター)の導入と、ほ場の枕地確保により効果を高め、労働生産性を向上

● （株）下村青果商会（高知県南国市） 6月26日認定

きゅうり

省力的に品質等を確保できる統合環境制御装置と、その効果を高める高機能型高軒高ハウスを導入

★IPCSA（スマート農業イノベーション推進会議） 会員を募集しています★

農業者を中心とした多様なプレイヤーによる
コミュニティ形成を通じて、スマート農業技術の
活用促進に関する課題解決を図ります。



会員登録は
[こちら](#)



生産方式革新実施計画の認定事例

音更町ブロッコリー運営協議会（北海道音更町）

ーAI自動収穫機の活用、大ロット出荷方式への転換により労働生産性向上ー

音更町ブロッコリー運営協議会は、十勝管内のブロッコリー生産農家64戸で構成される協議会で、現在、115haでブロッコリーを栽培しています。高齢化による人手不足に対応するため、省力化に向けた自動収穫機の導入と出荷方式の転換に取り組めます。

Q 活用するスマート農業技術、新たな生産方式への転換についてお聞かせください。



活用するスマート農業技術は、収穫に適したブロッコリーをAIが自動選別して収穫するAI自動収穫機です。

また、新たな生産方式として、機械収穫したブロッコリーを、従来の小型プラスチックコンテナ詰めの出荷から大型鉄コンテナによる出荷に切り替えることとしており、これにより、畑からの運搬や出荷に要する作業時間を短縮し、労働生産性の向上を目指していきたいと考えています。

また、木野農業協同組合では、サービス事業としてAI自動収穫機を利用したブロッコリーの収穫作業を受託するとともに、鉄コンテナでの受入れに必要な集出荷施設の改修を行う予定としています。

Q 計画認定を受けたきっかけを教えてください。

ブロッコリーの収穫については、現状、一つ一つの花蕾の大きさを目視で確認しながら手作業で行っており、また、ほ場からの出荷も小型のプラスチックコンテナを使用しており、多くの人手を要する状況となっています。

しかしながら、昨今は、音更町においても人手を確保することが非常に難しく、スマート農業の活用促進が求められています。

認定を受けることで、地域におけるスマート農業の一層の普及が期待できるとともに、集出荷施設の改修に係る補助事業の採択に向けた優遇措置を利用できることから、認定を申請することにしました。



Q ブロッコリー栽培の生産性向上に向け、今後の意気込みをお聞かせください。



AI自動収穫機の活用については、令和11年度から開始する予定としており、それまでは、機械メーカーがプロト機で行う収穫試験に協力しながら、導入に向けての準備を進めていきたいと考えています。

また、集出荷施設の改修については、令和8年度末の竣工を目指しており、改修規模などの具体的なことについては、今後、検討していくこととしています。

将来に向けても人手不足が避けられない中、本計画も含めたスマート農業の普及により、農業者が安心して持続的な営農ができる環境が構築され、ひいては地域の発展にもつながることを期待しています。

開発供給実施計画の認定事例

フタバ産業（株）（愛知県岡崎市）

ー雑草の成長点等にピンポイントに照射するレーザー除草・害虫防除ロボットー

フタバ産業株式会社は、1945年設立の愛知県岡崎市に本社を置く企業で、主に自動車部品の製造を行っております。2017年より農業事業にも進出しており、燃烧式暖房機の排気ガスに含まれるCO₂を浄化し、貯蓄・供給ができるアグリーフCO₂システムを展開して環境に配慮した技術にも積極的に取り組んでいます。

Q 計画認定を受けて開発を行うスマート農業技術について教えてください。



開発中のレーザー除草ロボット

レーザーを用いた除草・害虫防除を行う自律走行型ロボットの開発を行います。独自に開発したAI深層学習による画像処理技術を活用し、作物と雑草や害虫を瞬時に判別し、エネルギー効率の良い青色レーザーを用いて、雑草の成長点や害虫の急所をピンポイントで照射し死滅させる技術と、GPSなどのGNSSに頼らず、専用カメラで作物列から走行ラインを算出するシステムや、巡回ルートと位置情報を自動算出するシステムを組み合わせ、自律走行システムを構築することとしており、これらのコア技術についてそれぞれ開発、改良を行います。

Q 開発供給実施計画の認定を受けようと思ったきっかけをお聞かせください。

当社は、自動車部品製造で培ったレーザー溶接技術や製造ラインの画像検査における画像認識技術等のコア技術を応用し、農業分野でも「環境」「安心」「豊かな生活」の価値提供を実現するため、「レーザー除草・害虫防除ロボット」の開発を進めており、更なる開発が必要であることから、大阪大学や農研機構らとコンソーシアムを設立し、開発供給実施計画の認定制度の趣旨に適した取組であると考え、申請・認定に至りました。



研究グループの構成図

Q レーザー除草・害虫防除ロボットの今後の展望についてお聞かせください。



現在課題となっている雑草の枯死率向上、自律走行システムの精度改善、害虫検出技術の高度化及び防除率の向上に向けては、コンソーシアム間の連携を強化し、現場での実証を重ねることで、実用性と信頼性の確保を図ります。また、我々が開発する「レーザー除草・害虫防除ロボット」は、農業現場の省力化と収量の安定化に直結する革新的な技術であり、持続可能な農業の実現に大きく貢献すると確信しています。

2030年の有機農業の普及目標の達成に向け、早期に実用化できるよう開発を進めて参ります。



害虫へのレーザー照射試験



7/11（金）WAGRIオープンデー2025が開催！

WAGRIとは、気象や農地、収量予測など農業に役立つデータやプログラムを提供する農業データ連携基盤です。農業従事者の高齢化と減少、地球温暖化など農業が直面する多様な問題を解決するためには、データの活用による農業の生産性向上、高付加価値化が必要です。

本イベントは、「WAGRI」を利用してサービスを展開する事業者と生産現場の関係者などが情報交流する場として開催されるものです。WAGRI会員企業・団体によるアプリやサービスの展示が予定されており、サービスの活用方法を直接担当者に相談することで、農業の様々な課題解決の一助となることを期待しています。

データをフル活用した農業に興味をお持ちの方をはじめ、どなたでも参加可能です。皆様のお越しをお待ちしています。

【開催概要】

日時：7月11日（金）13：00～16：00

場所：東京都立産業貿易センター浜松町館
3階南展示室
（東京都港区海岸1-7-1）

参加費：無料

主催：農研機構 基盤技術研究本部
農業情報研究センター

申込：7月4日（金）までに専用フォームにて申込

出展社（抜粋）

あいうえお順 敬称略

会社名	ブーステーマ
ESRI ジャパン株式会社	ArcGIS ～ 農業現場を支える GIS プラットフォーム ～
株式会社NTTアグリテクノロジー	遠隔営農支援システム・収量予測システムの社会実装に向けた取り組み
キーウェアソリューションズ株式会社	熟練農業者の技能継承サービス
株式会社クボタ	農業経営の課題解決をサポート「KSAS」
グリーン株式会社	農業 AI プレーン e-kakashi（イーカカシ）：AI が収穫適期や病害虫発生リスクをお知らせ。儲かる農業に貢献します。
高知県	高知発、I o P で農業が変わる！
持続未来株式会社	施設園芸向け営農支援アプリ「マネベジ」、果菜類向け営農支援アプリ「フルベジナビ」
住友化学株式会社	農業現場の課題をサポート！つなぐアプリ
株式会社セラク	～スマートフードチェーンの起点に！～
株式会社ソフトビル・株式会社ファーム・アライアンス・マネジメント	WAGRI API の活用事例
日本農業株式会社	レイミーと Z-GIS の連携による農業データの見える化
株式会社ビジョンテック	WAGRI を利用した農業情報サービスと農業散布業者向けサービスのご紹介
株式会社ファームシップ	青果の卸売・需要価格予測 ～必要な量を予測して、無駄のない生産・販売を実現します～
ベジタリア株式会社	気候変動対応農業 DX・リジェネラティブ農業への取り組み
ヘルシステム 24	農業の未来を守る！30 日間天気と気象防災シグナル API の紹介

お申込はこちら



イベント詳細 (WAGRI HP)



東北農政局の取組を紹介します

東北農政局では、生産方式革新実施計画の認定者の方に、農林水産大臣名の認定証を授与するイベントを積極的に開催し、メディア等を通じた制度の周知を図っています。また、農業者から計画策定の相談があれば、オンラインツール等を活用しながら、積極的に認定に向けた打合せを行っています。ぜひご相談ください。

【参考】認定証授与式（右写真）

（株）美田園ファーム（宮城県名取市）は、自動操舵トラクタ等を活用しつつ、直播栽培を拡大しながら収益性を向上させる取組を行う内容の生産方式革新実施計画の認定を受けました。

東北農政局では、6月20日に（株）美田園ファームに対して認定証の授与式を行いました。



スマート農業インフォメーションについて

最新の計画認定案件などの掲載を予定しています。

本紙への御意見・御感想、取り上げてほしいテーマのほか、みなさまが取り組まれているスマート農業技術の活用について紹介してほしい！といった声もお待ちしています。

【発行】農林水産省大臣官房政策課技術政策室（IPCSA事務局）
メールアドレス：ipcsa_jimukyoku@ml.affrc.go.jp

農林水産省
MAFF